

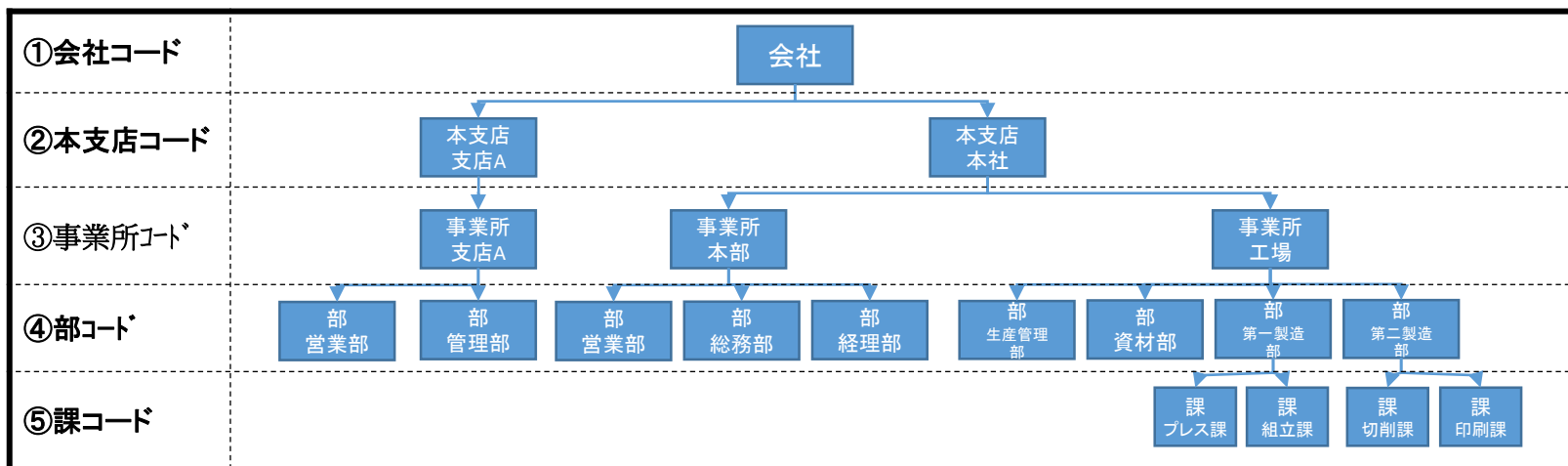
(2) 原価部門の設定

標準原価の設定で最も重要な概念の一つが「部門」です。SHINの『部門』には以下の種類のコードが存在します。

(1) 組織部門コード

以下の5段階でツリー構造になっている機能別組織部門コードの体系です。

- ①会社コード
- ②本支店コード
- ③事業所コード
- ④部コード
- ⑤課コード

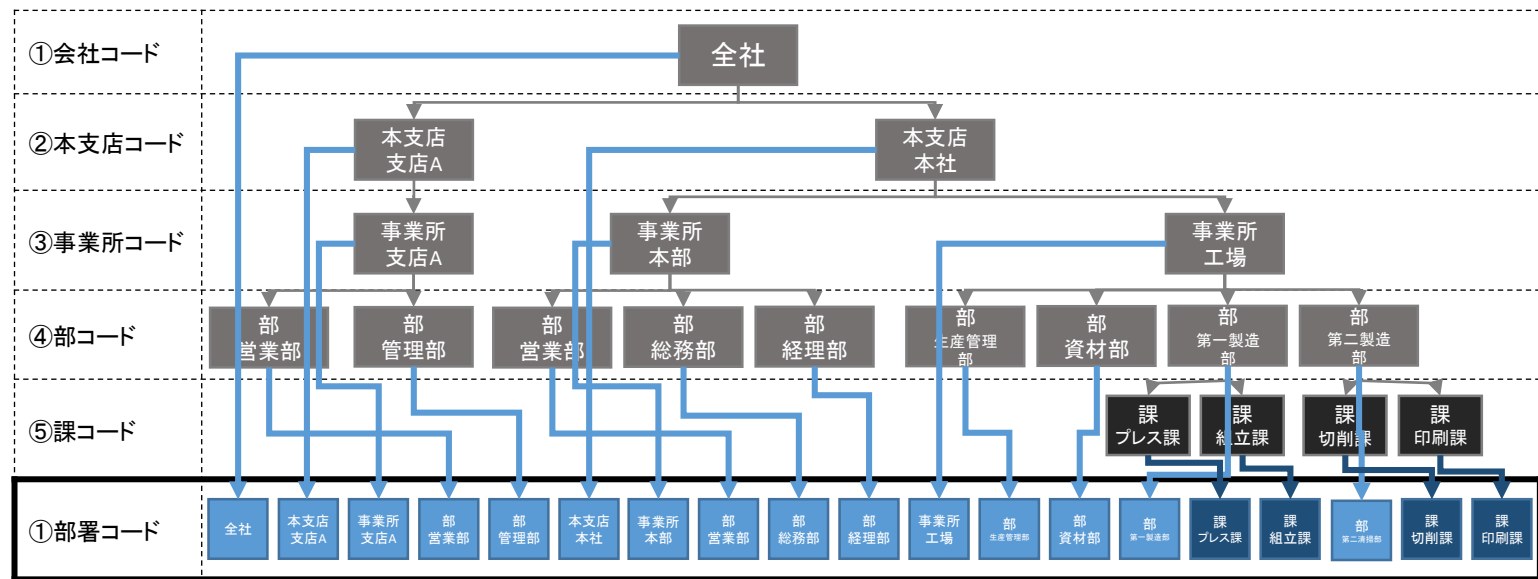


(2) 部署コード(原価部門コード)

組織部門コードを設定した各レベルの組織部門単位を原価集計する単位として同レベルで再定義したものです。予算はこの単位で設定します。

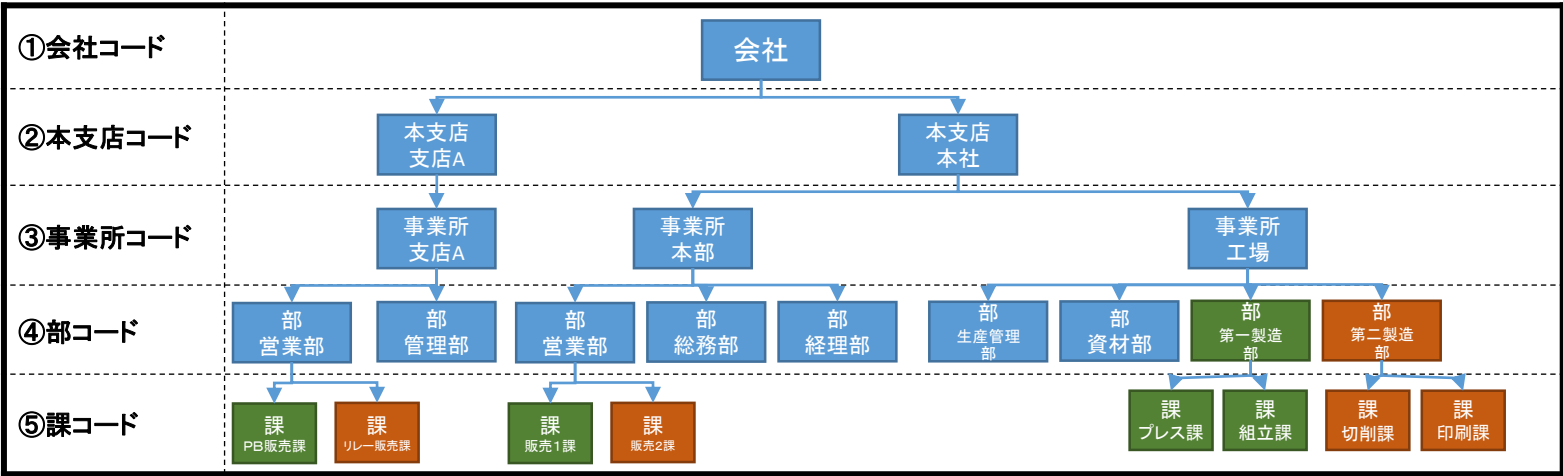
労務費レート及び製造間接費レート算出のために、部署に設定された予算は以下の配賦処理にて製造部門の部門個別費に合算集計されます。

- 1) 最下位レベルの組織コードに対応する部署に設定する予算を「部門個別費」と呼びます。上位レベルの部署で予算設定できますが、『共通費配賦処理』を通じて最下位レベルの組織コードに対応する部署コードに振替られ、「部門個別費」に合算集計されます。
- 2) 上述の処理後、「補助部門」に定義された部署コードの「部門個別費」は、各「製造部門」へ『補助部門費配賦処理』を通じて振替集計されます。



(3) 事業部コード

「組織部門コード」のツリー構造の各部署を横に串刺した切り口を設定するためのコードです。部署コード単位に設定します。少なくとも事業部コードは部署単位には分割されている必要があります。



「部門個別費」とは、最も最下位の「課」コードレベルに直接データが登録された費用をいいます。これに対してそれ以上の上位の部門コードに設定された費用は「部門共通費」と言います。

部門共通費は原価計算上は「部門共通費配賦マスター」の設定内容に従って*1、下位の「課」のレベルまで配賦分解され、最後は全ていずれかの「課」のレベルの「部門個別費」になります（「部門共通費の配賦」）*2。現在標準機能では②本支店の設定はできないため、これを除いた4部署階層による3レベルの配賦となります*3。

これはSHINは最下位の「課」のレベルでのみ「労務費単価」や「製造間接費単価」が設定できる機能のため、課のレベルまで分解する必要があるからです。従って、工場レートとか、全社レートといった単位で「労務費レート」や「製造間接費レート」を設定する場合、「原価部門」コードの設定に注意が必要です。

*1 固定比率配賦法です。動的配賦率はカスタマイズ
*2 “原価要素ごと科目一括”の「直説法」による配賦
*3 3レベル以上はカスタマイズ

